

近畿大学 理工学部・大学院 総合理工学研究科

「東大阪モノづくり技術者育成プロジェクト」文部科学省 モノづくり技術者育成支援事業 「東大阪モノづくりイノベーションプログラム」文部科学省 大学院教育改革支援プログラム 合同フォーラムの実施結果報告

2009年6月4日(木)、クリエイション・コア東大阪において、「東大阪モノづくりイノベーションプログラム」文部科学省 大学院教育改革支援プログラム(大学院 GP)、「東大阪モノづくり技術者育成プロジェクト」文部科学省 モノづくり技術者育成支援事業に係る一般公開の合同フォーラムを開催した。

合同フォーラムは、大学教員と一体となって、モノづくり教育を推進しているシニアサイエンティスト・シニアエンジニア(SS&SE)の成果報告を中心に構成し、大学関係者15名、企業関係者10名、学生16名が質疑応答を交えて熱心に聴講した。

本事業の代表者である近畿大学大学院総合理工学研究科長沖幸男先生から開会の挨拶と合同フォーラムの趣旨説明があった後、10名のSS&SEの成果報告と東大阪モノづくり専攻博士課程2年生1名による中間報告があった。特に、SS&SEは、モノづくりに精通し、豊富な知識とノウハウを持った、企業や研究所などで実績を積んだ定年前後の研究者・技術者で、ご自身の近畿大学での研究以外にも、企業での経験、企業と大学の研究のやり方の違いなどについてもわかりやすく説明を受け、大学関係者や学生には大きな刺激になった。

近畿大学においてSS&SEはいろいろな分野で活躍しており、化学分野では「キラルスルフォキシドの合成と活性評価」「次世代アロマ用品の開発」「ニコチン代謝剤としての精油モノテルペン類」「無攪拌連続式高速リアクターによる石鹼製造」「熱応答性高分子の研究」など実用的な研究から最先端研究まで幅広く研究成果の発表があった。また、SS&SE自身の企業経験を踏まえた「企業における化学物質管理」についての紹介もユニークな試みであった。機械工学、電気・電子分野では、「超高速ビデオカメラ用照明システムの製作」「微分干渉顕微画像データにおけるポリスチレン球の定位方式の開発にむけてのコンピュータシミュレーション」「ものづくり技術を伝承した魔鏡の研究」「レーザー射撃装置の開発」など実用化に近い研究も紹介された。東大阪モノづくり専攻博士課程の院生は、企業との共同研究の成果である「衝撃吸収キアスター開発」と題して実用化した商品を持参して発表した。最後に近畿大学大学院総合理工学研究科東大阪モノづくり専攻長五百井先生から閉会の挨拶があり合同フォーラムは終了した。

このように様々な研究分野の研究者が一同に集まり、研究発表する機会はあまりないので、参加者から、他分野に対する理解が深まったとのコメントがあった。今後も、大学関係者、企業技術者と学生が、「モノづくり」というキーワードで異分野の研究開発についても理解を深め、議論できる場を造っていくことが必要と感じた。

以上



沖総合理工学研究科長による合同フォーラムの開会挨拶および趣旨説明



辻井氏 (SE&SS) による「キラルスルフォキシドの合成と活性評価」の発表



質問にたつ藤野講師（近畿大学理工学部）



板書を用いて質問に応える発表者



岸岡氏 (SE&SS) による「企業における化学物質管理」の発表



釘宮氏 (前 SE&SS、現大阪大学客員教授) による「ものづくり技術を伝承した魔鏡の研究」の発表



須田氏（東大阪モノづくり専攻博士課程）による「衝撃吸収キャスターの開発」の発表



試作品を用いて質問に答える発表者